

幸福学を活用した事例について

次のとおり、慶應義塾大学大学院 前野隆司教授のインタビューにあるように、4つの幸せの因子が高まっている事例（芝の家）があります。

誰でも達人になって、自己実現できるのです

幸せなまちづくりの実例を教えてください。



ます。

手前味噌ですが、私も研究にかかわった「芝の家」という場づくりプロジェクトがあります。慶應義塾大学の教員でもある坂倉杏介先生（東京都市大学都市生活学部・准教授）が手がけているもので、港区芝にある緑側つきの家がオープン時は出入り自由になっていて、近所の子もたちやおじいさん、おばあさんなどが日々、憩いにやって来ます。そのうち徐々につながりが生まれて、自分たちで祭りをしよう、レコードコンサートを開こうといったことが次々に立ち上がっていきました。こうして皆が自発的にやりたいことを考え、行動できる場と仕組みを用意しておくことで、4つの幸せ因子が自然と高まっていくのです。幸せのプロジェクトとして始まったわけではないのですが、優れた実例となっています。

HP (2030 work style) より

「芝の家」とは、港区芝地区総合支所による「昭和の地域力再発見事業」の拠点。企画と運営を、慶應義塾大学との連携で進めています。

目的：あたたかい人と人とのつながりの創生（ありがとう因子）

「あたたかい人と人とのつながり」とは、子どもがのびのびと遊び、お年寄りが安心して暮らせるように、まちに住み働く人たちがお互いに支えあえる関係です。本事業の拠点である「芝の家」は、現代社会で見失いがちな、こうした暮らしのあたたかさを育てていくため、子ども、大人、お年寄り、住民、在勤・在学者、だれでも自由に出入りでき、地域の方々と共にまちを考え創ることのできる場を提供しています。

芝の家の利用者のアイデアで週1回のランチ会などが開催されており、利用者同士が芝の家を居心地のいい場所に育てられています。（やってみよう因子）

